



秋草
印



一とせ乃 左甫

曠をわきます

そのからあ

半書そえぬ 超聖

程もあらせ居

新鳴り

又々代や高曳く時の果も於し	廣
その節や羽音止拂ふ去来の藝	和
水引乃むまひ目かじし梅のを	章甫
うんはその歌くやかき乃下流を	杏生
能ひやそ文花ハ六つ福を福壽軒	北台
ありふれし時うはる並人難を多し	曾外
いんはるまゝ紙はき出して饒り海老	可由

啼てあゝ木兔もかく狩て初日歌	希彦
かち栗や味よちからのあり阿万の	希云
元日や時うつともとんけぬ空	素樸
方をもあ一歌う梅と通ふ山あう歌	趙甫
いさゝくお歌や雪をり梅苗	西菴
多布あまし内依の志ある年酒を	素海
年これや素吉を梅の蓋みしり	山水

あやもさ良休ミ也所その秋	晴江
多あとして庭根うらまゝの梅ころあ	林坂

巳出流しり

とらや社

